



TOEFLとともにアメリカ大学への進学には欠かせないSAT (Scholastic Assessment Test) が今年から新しくなりました。SATとはどのようなものでしょうか。何回かに分けてアメリカの大学入試とその対策について簡単に紹介します。

海外の受験生(日本人)がアメリカの大学を受験するためには、出願書類として以下のものが必要になります。()の数値はトップ大学合格に必要なレベルです。

GPA 平均評定	高1~3の成績(4.5以上) [校内の5段階評価]
TOEFLスコア	テスト・スコア(100以上)
SATスコア	テスト・スコア(1600点満点 得点率9割以上)
Activities 課外活動歴	中3~高3間の活動歴・受賞歴を10まで記載可 [内容・役割・活動時間が重要]
Honors 受賞歴	5つまで記載可 [どのレベルでの受賞かも重要。コミュニティーへの影響力を評価] (国際>全国>地区>校内)
ESSAY	高3時に作成
高校作成資料	高3時に作成 フォーム、推薦状他

新SATは1600点満点で実施されます。概要は下記のようになっています。

セクション 時間/配点		
Evidence-Based Reading & Writing (800点)	Reading Test 65分/52問	文脈を理解し、文章を批判的に読む力など、論理的思考力を試す。 選択問題 文学(米国または世界)から1題、歴史・社会・科学からそれぞれ2題出題される。また、表・グラフなどデータを含んだ英文も一部出題される。
	Writing & Language Test 35分/44問	より適切な英文を作成する力や、文章を論理的に構成する力を測る。Writingでも表・グラフなどデータを含んだ英文も一部出題される。 選択問題 改定前必須であったESSAYはオプションとなり、「誤箇所指摘問題」はなくなった。
Mathematics (800点) 80分/58問		四則演算や台数、幾何などに関する基本的な処理能力を問う。 選択問題 記入問題 ※計算機使用可・不可の両セクションあり

SATは、5・6・10・11・12・1月の年6回実施され、日本で受けられます。受験回数は3回までがベスト。申込開始日から数日で満席になるので早く申し込む必要がある。なお、SATとは別に「サブジェクトテスト」があります。数学I、数学II、物理、化学、

生物、世界史、米国史、文学、などから2科目(各科目800点満点)選択して受験します。科目が指定される場合もあります。また、SATを選択せずに、ACTという学力判定テストを選択することもできます。

(次回に続く)

2016年2学期特別英語レッスン基本内容

ヴィアン先生の英語勉強会の2学期予定が決まりました。この勉強会は、将来TOEFLやSATを使ってアメリカの大学への進学を考えている、あるいはTOEFL受験の対策などを目的としたものです。

2学期からは上級者のコースを多く作ります。講座の説明会を、9月2日(金)、午後3時20分から講堂で行います。下記の講座内容をよく考えて参加して下さい。参加する限りは、無断欠席をしないことが条件です。

なお、英語力保持のコースを望む場合は、別に設定される講習に申し込んで下さい。

火・水・木・金

上級

英語力：意見・考えなどはたいてい自由に表現ができる

TOEFL iBT 45-50以上、英検2級以上 などのレベル

- TOEFLとSAT(アメリカ大学進学適性試験)に関して必要となる語彙の練習
- TOEFLとSATに関して必要となる上級文法の練習
- TOEFLリーディング・リスニングに関する質問の技の紹介・練習
- TOEFLスピーキングを話題から発表まで仕方・考え方・技術の紹介・練習
- TOEFLライティングを話題からエッセイまで仕方・考え方・技術の紹介・練習

月

中級

英語力：初級・中級の語彙・文法などは理解し、簡単な会話ができる(自己紹介・家族の紹介などの話題について問題なく話せる能力)

TOEFL iBT 25-30以上、英検3級以上 などのレベル

- 中級語彙の練習
- 間違いが多いよく使う中級・上級の文法の紹介(ネイティブの見方より)・練習
- 2番によりリーディング・リスニング・スピーキング・ライティングのアクティビティ

「Global Communication Workshop」報告 第2弾

高校1年 河上 洋紀

東京医科歯科大学のGlobal Communication Workshopに参加しました河上洋紀と申します。今回のワークショップでは、今まで培った英語力を実践的な場で試す良い機会となりました。事前準備の際に、難度の高い単語や医学用語を調べることにより語彙力の幅を広げることができ、それによってまた今後の課題を発見できました。また、WHO(世界保健機関)等のそ

それぞれの役がポリオのワクチン接種に賛成なのか反対か、または中立的な立場をとっているのかについて判断することで、本番で自分がいかなる役を演じるようになっても慌てることなく発言する内容を考えられたので、良い準備が出来たと思います。当日の最初の導入で、相手を説得する上で効果的に自分の意見を主張する方法の説明があり、「主張」・「理由」・「根拠/例」の3つの「ORE」という型に当てはめれば、簡単に、且つより説得力のある意見を相手に伝えられるということを学びました。また、「交渉」では、相手の提案を自分が引き受けたら代わりに、自分の提案も受け入れてくれるように頼むべきだということも勉強になりました。

「交渉」では、僕たちそれぞれが置かれた立場のもと、それぞれの立場にとって最良な解決策に近い結論を導き出すということが目的でした。僕は、LCO (Local Community Organization) というナイジェリア現地の地域団体の役を演じていて、ポリオのワクチン接種には反対の立場でした。LCO の最良の解決策は、ワクチン接種が停止し、高技術の医療設備が整った第3次医療の資金の援助を受けることでした。「交渉」の際、班の中で一番積極的に多く話すことができ、結果、「長期的には、ナイジェリア国内に工場を設備してワクチンを製造しそれを用いてポリオ感染を防止する。短期的には、トルコ等イスラム教徒が大部分の国で作られたワクチンを使用しポリオ感染を防止する。」という結論を導きました。LCO は西洋人によるアフリカ人の卑劣な扱い方という歴史的背景によって、西洋人を信用しておらず、西洋人の製造したワクチンを接種することを拒否しているの、イスラム教徒が大部分の国で作られたワクチンを使用することは問題ないと考えました。西洋人が製造したワクチンを接種するという最悪の解決策に持ち込んでしまった班もある中、僕の班ではLCO にデメリットはなく、むしろWHO 等から援助資金を受けることが出来るので、僕の班の結論はLCO にとって良い解決策であったと考えられます。

医科歯大の学生が発言した内容は理解し難いものもあり、外人の方がまとめたものを聞かなければ納得できなかった場面もありました。外人の助けに頼らず、自ら相手に質問し理解出来れば更に良かったと思いました。

今回のワークショップは楽しんで積極的に取り組み目的を達成でき、様々な課題を再確認できる機会となったので、非常に貴重な経験となりました。

高校2年 霜上遼太郎

私は東京医科歯科大学のGCW(Global Communication Workshop)に参加してきました。初めてテーマを見たとき医学部生相手にポリオについてのディスカッションをするのは難しいと思っていましたが、蓋を開けてみるとそのようなことはありませんでした。実際にはより国際的な、政治的な話でした。

また、事前配布資料が不足しまとめた議論が出来ないと思っていましたが、各役割ごとに配られた別の資料にその交渉の場で目指すべき最高獲得ラインと最低譲歩ラインが書かれており、予備知識程度の配布資料でも交渉になるシステムになっており私の心配は無用でした。ただ私はそのようなことは露知らず、必死に国連の報告書や論文などを読み漁っていました。結果として交渉の体裁をとったディベートであるため周りの参加者がついてこられなくなる恐れや、アンフェアとなる可能性があったそれらの資料は本番の交渉では表だって使用はできませんでしたが、公開されていない相手の最低譲歩ラインや最高獲得ラインを極めて容易に推測出来たため交渉を有利に進めることができたのもまた事実です。

さてここから当日の流れについて話したいと思います。まずこの企画の趣旨の説明を受けた後、簡単なレクチャーとしてORE(Opinion Reason Evidence)の使い方について説明を受けながら「Books are better than movies」というテーマでFour Corners というアクティビティで実際

に使ってみたりしました。(Four Corners とはテーマについてstrongly agree, agree, disagree, strongly disagree と分かれてお互いの意見を言うというものです。)

次に今回のテーマについての簡単な説明を受けました。この説明はきちんと事前配布資料を読んでおけば重要な部分のみを抜いてきた要約であることがわかるものでした。

そしていよいよ迎えた交渉本番、まず同じ役割の参加者で集まるSame role meeting がありそこで先ほどあげた資料が配られました。またこの交渉は2回に分けて行われるのですが、私の役割であったLCO(Local Community Organization カノ州の地元組織)では初めの交渉ではノーを言い続けろと言われていました。

その後始まった交渉ではアメリカ代表のアメリカ疾病管理予防センターの役割の参加者が、もう多額の資金を提供したからワクチンをうってもらわないと困ると切り出してきたので、配布資料にその用途を書かれていなかったことを確認した上で「何に使ったんですか？我々はうたせる気はありませんから。なんならアメリカが作るらしい壁にその予算を使った方が良かったんじゃないですか？」などと冗談を入れながら前半を切り抜け、再びSame role meeting を経た後、後半の交渉へ向かいました。

後半はどこまで最高獲得ラインに近づけられるかの勝負になります。ここで私が事前配布資料以外に読んでいたことが生きてきました。それぞれの最低譲歩ライン、最高獲得ラインを容易に想定することができたので情報戦、心理戦だったこのパートではかなり有利に交渉を進めることができたと思っています。途中紆余曲折はありましたが結果的に私は最高獲得ラインを獲得できたのは情報で1歩先んじていたことがあると思います。

今回のこの企画に参加して海城内とは異なる価値観や考え方を持つ人と意見交換できたことは貴重な経験になりました。また交渉を通じて情報の重要性を実感しました。

アスペン・ジュニアセミナー

一流の講師陣(例えば村上陽一郎東大名誉教授)の指導の下、東西の古典をテキストにして「より善く生きる」「何のために学び、働くのか」「大切にしたい価値」といった私たちの生き方について考えるセミナーです。参加者の対話によって進められていきます。対象は高校2年生です。関心のある高2生は2学期が始まったらグローバル教育部まで来て下さい。

セミナーの日程 11/27 12/23 1/22

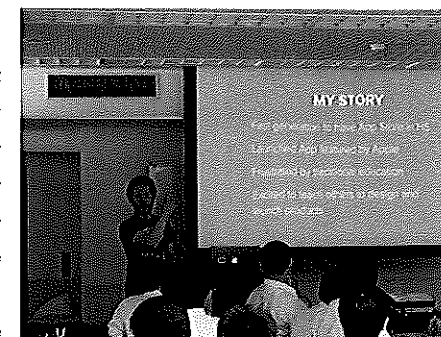
夏休みの挑戦

いよいよ夏休みに入りますが、海城生は、グローバル教育部が企画したり、グローバル通信で紹介した様々な企画に挑戦します。

- A I U 高校生国際交流
 - ニューヨークでの開催プログラム 1名
 - 京都での開催プログラム 1名
- 日韓高校生交流プログラム(於 福島) 2名
- I S A主催 UCパークレー研修プログラム 1名
- Programming 「make School」
 - 「東大」 1名

その他に、本校企画のプログラム

- イギリス研修 高1・2 30名
- イングリッシュキャンプ 中2 100名
- 中3・高1 24名



本校で開催された「make School」